

林野労組九州

発行所
熊本市西区京町本丁2の7
全国林野関連労働組合
九州地方本部
(電) 096-354-1150

発行者 加来尚貴
発行日 10日
定価 1部20円
組合員の購読料は
組合費の中に含む

緑を育て、守る、 林野労組

当面の活動

- 8月3日、各分会大会
- 8月7日 執行委員会
- 8月8日 林野労組九州連絡会
役員会(大分市)
- 8月29日 九州地方林退会総会

匠の腕

『街中にある巨大アリーナ』

(撮影者：中島純也・佐賀分会)



「匠の一言」
2023年に完成した佐賀アリーナ。今年開催される国スポの会場の一つでもあります。

20回目の節目の大会で活発な議論が行われる 将来を見据えた意思統一

～林野労組九州地本第20回定期大会～



意思統一し団結ガンバロー

九州地本は、7月19～20日、熊本県玉名市「ヨコイヤホテル」において、全国林野関連労働組合九州地方本部第20回定期大会を開催し、各分会代議員など約50名が参加しました。
新型コロナウイルスが5類移行になり2年連続で集合形式により開催されました。

大会は、議長団に蒲池(大分西部分会・北部ブロック)、平松(局分会・熊本ブロック)両代議員を選出し、議事が進められました。
冒頭、加藤地本執行委員長は「この一年間、それぞれの職場において、様々な課題の解消に向け取り組んできたことに対して感謝申し上げる。元日に発生した能登半島地震や、九州でも近年自然災害が多発している。被災された方にお見舞いを申し上げる」とあいさつ。
(あいさつ要旨は別掲のとおり)その後、来賓参加である、林

野労組中央本部の中村執行委員をはじめとして、各来賓からあいさつを受けた後、連合・林野

労組各地本をはじめ各政党・議員、友誼団体からのメッセージが披露されました。
引き続き、地本執行部から2023年度経過と総括、2023年度決算報告、会計監査報告、2024年度運動方針(案)、2024年度予算(案)、2025年度暫定予算(案)、事務報告、組織財政確立委員会報告が提案され、質疑・討論が

行われました。
質疑・討論では、様々な課題が分会から発言され、ほとんどの分会が抱えている大きな課題として、要員問題や、現場管理機能問題、昇格基準問題等の多くの意見が出されました。また、各種手当てについては、今後詳細が示される予定である、旅費の取扱い等、労働条件に関する課題について、今後も引き続き

税につきましては、2020年から譲与税の交付が始まっています。
人口の多い市町村の譲与額が大きくなる傾向にあることから譲与基準の見直しを求め取組を進めた結果、改正法が成立し、私有林人工林面積の譲与割合が5割から5・5割人口の譲与割合が3割から2・5割となり、今年度の譲与から適用されることとなりました。今回の改正で前進はしたものの、満足しておらず、税の趣旨に基づき、奥地等の森林整備が着実に進展するよう、引き続き、譲与基準の見直しを求めていく考えです。

その後、各ブロック代表による総括討論と地本決意表明があり、引き続き、分会機関紙コンタールの表彰、大会スローガン、全日程を終了しました。

大会宣言が採択されました。最後に、加藤地本執行委員長による団結ガンバローで、大会全日程を終了しました。

最近様々な所で選挙が行われている。それぞれ応援する人がいることと思う▼
そんな中で某国の選挙で候補者が演説中に狙撃されるといふショッキングな出来事があった。応援する政党は違えど、同じ人間であり敵ではないと思いませんか、組織で問題を解決していくことは重要だと思いませんか。
今後オルグによる情報伝達を強化し、情報の共有化を図るとともに、分会書記長会議等を開催しながら、若手育成の取組を強化するなど、きめ細かな組織運営に努めていきたいと思っております。



地本委員長あいさつ 取組の強化ときめ細かな組織運営を

今年、元日に「能登半島地震」が発生し、改めて自然災害の怖さというものを実感しました。地本としても日頃から情報収集等に努め、組合員の命と健康を守ることを最優先に取り組んでいきたいと思っております。

私からは、課題等、3点について報告し、挨拶に代えたいと思っております。
まず一つは、取り巻く状況についてであります。
岸田政権は発足当初はソフト感を漂わせてきた印象でしたが、その後、いろんな問題に対して説明責任を果たさず、国会を軽視した態度に終始し、議論が尽くされていない問題法案を次々に成立させています。

コロナ禍でも、国民に寄り添わず、国家が国民の生命・林業政策の推進、山村振興、国有林野事業の推進等を図る

たために、国会対策を中心とした取組が重要との認識の下、立憲民主党を基軸に、林業に造詣の深い議員の確保に取り組むこととなります。
現在、連合本部においては、地方連合からの要請に基づき推薦決定が行われていますが、林野労組においては50数名の推薦決定にとどまっています。九州地本では、現在、9名の推薦決定にとどまっています。そのため、推薦候補の決定をはじめ、組合員の政治意識の向上に係る取組をお願いします。
また、来年の夏に行われる第27回参議院選挙についても、併せて取組をお願いしておきたいと思っております。
二つに、一般林政課題と国有林野事業についてであります。森林環境税・森林環境譲与

このことは、岸田政治のおごりと怠慢だと思っております。こうした状況の中、4月に行われた、衆議院の補欠選挙では、全ての選挙区で立憲民主党の勝利という結果になりました。また、7月に行われた東京都知事と都議の補欠選挙においても、自民党は惨敗しています。この流れを衆議院選挙につなげていく必要があると思っております。

衆議院の解散については、その見通しは未だ不透明となつていますが、いつ解散があつても対応出来るよう準備を進める必要があります。
林野労組としては、森林・林業政策の推進、山村振興、国有林野事業の推進等を図る

九州地本の組織率は現在90%を維持しています。
このことは、組合員一人一人が組織の重要性を認識し、理解と協力による九州地本の財産だと思っております。改めて、分会、組合員の皆さんへ感謝を申し上げます。地本としても、現状の組織率に胡坐をかかなく、今後の取組を前進させるためにアンテナを高くし、組合員の要求と課題を明らかにして、課題の有利解決に向けて取組を強化し

たにも頑張りますよ。
(SUKI)

最近様々な所で選挙が行われている。それぞれ応援する人がいることと思う▼
そんな中で某国の選挙で候補者が演説中に狙撃されるといふショッキングな出来事があった。応援する政党は違えど、同じ人間であり敵ではないと思いませんか、組織で問題を解決していくことは重要だと思いませんか。
今後オルグによる情報伝達を強化し、情報の共有化を図るとともに、分会書記長会議等を開催しながら、若手育成の取組を強化するなど、きめ細かな組織運営に努めていきたいと思っております。

たにも頑張りますよ。
(SUKI)

たにも頑張りますよ。
(SUKI)

地本大会の質疑・討論

国有林野事業の推進

◆要員関連課題について

小山(局分)

空きポストが増加し、負担を強いられている。業務の平準化と新採の確保を。

米本(熊本南部分会)

現職森林官が少なく、中堅層が少なく、バランスのとれた要員配置を。

井上(大分分)

特に森林官の空きポストについて、事務取扱が増える状況。要員不足に起因して、メンタル症状が出ないか心配している。

和田(宮崎南部分会)

森林官の空席ポストが増加している。現場管理機能の確保の観点からも、人員配置を求める。

井上(西都児湯分)

要員不足に起因して、メンタル症状が出ないか心配している。

松永(鹿児島分)

空きポストの要員配置については、鹿児島でも大きな課題のひとつ。特に8月1日付けの人事異動で、総括事務管理官が空席となった。分会でも署長に抗議していく考え。地本としても早期配置に向けた交渉強化を。

秋吉(長崎)

長崎でも4つの森林官が空きポストとなっている。業務が回らない事や労働過重が著しい。引き続きの要員確保の取組を継続して取り組んで欲しい。

坂本(沖縄分)

世界遺産登録地など重要な位置づけにある沖縄署については、

適材適所の人材配置を求める。

岩本(宮崎北部分)

フルタイム再任用者等の森林官配置で、森林官に任用できない者が出てこないようにしなければならぬ。

和田(宮崎南部分)

森林官の空席ポストが増加している。現場管理機能の確保の観点からも、人員配置を求める。

井上(西都児湯分)

要員不足に起因して、メンタル症状が出ないか心配している。

◆新設ポスト要求について

峯(佐賀分)

大規模自然災害が全国各地で増加している。九州で総括治山技術官が設置されていない署が三署ある。設置された森林土木指導官も空席となっている。災害がひとたび起これば、その対応に追われ、業務量も著しく増加する。設置されていない署に総括治山技術官のポスト要求を取り組んで欲しい。

和田(宮崎南部分)

森林官の空席ポストが増加している。現場管理機能の確保の観点からも、人員配置を求める。

井上(西都児湯分)

要員不足に起因して、メンタル症状が出ないか心配している。

業務運営関連

◆林道維持修繕予算の確保

白内(北薩分)

今年度の林道予算も厳しい状況となっている。しかし、路面の洗掘や、路肩の決壊も多く見られる。実態を踏まえた交渉を行うてもらいたい。

田畑(福岡分)

海岸林等もあり、危険木も多い。危険木予算は年々減少している。危険木予算は年々減少している。危険木予算は年々減少している。

◆車両の更新

米本(熊本南部分)

林道予算の減少で、悪路も多い状況である。車両の更新の際には小回りが可能な車両に更新出来るよう交渉してほしい。

白内(北薩分)

業務予定は、金額では昨年と同程度となっている。人員も減少している中で、収入の確保に苦慮している。労働過重とならないよう交渉の継続を。

◆地本見解

坂本(沖縄)

林道維持修繕予算については、昨年と変わらない予算となっているが、集中豪雨等による自然災害が増えていることも注視し予算の確保を務めるべきと考えている。

◆地本見解

小山(局)

現況を踏まえ、収量も増大していることから、地本として更なる予算の確保に向け当局に

◆地本見解

井上(大分)

単独行動は連達では基本的にしないというところになってきているが、現実的にはせざるを得ない状況にあることは認識している。地本としても対策として、連絡体制の確立と徹底するよう引き続き求めていく。

◆地本見解

松永(鹿児島)

GS(完全移行)となったが、職場の雰囲気としてテレワークが使いにくい。使いやすい環境改善に向けた取組を求める。

◆地本見解

岩本(宮崎北部)

定年延長の給与水準7割はモチベーションが維持できない。改善に向けた取組を求める。

生命と健康を守る取組

◆安全の確保と対策について

市原(熊本)

森林官等の現場業務における単独行動については、現在の要員体制だとせざるを得ない状況にある。対応策として森林事務所への職員の配置、臨時雇用による日々雇用するの厳しい状況。単独行動が解消出来ないため対策を。

◆旅費法の改正について

藤川(局分)

旅費法の改正は、労働条件に大きく影響するので、取組を求める。

◆地本見解

松永(鹿児島)

国有林職員の労働条件に大きく影響することから、現状では中央本部が主体となって、林野庁交渉を実施している。さらに、国家公務員全体に影響する問題でもあることから、公務労協等を通じて、関係する交渉が実施されている。

◆地本見解

井上(大分)

詳細な制度設計は、まだ明らかになっていないが、林野労組としては日当に代わるものとして、官用車の運転手当等をもって交渉している。

◆地本見解

松永(鹿児島)

GS(完全移行)となったが、職場の雰囲気としてテレワークが使いにくい。使いやすい環境改善に向けた取組を求める。

◆地本見解

岩本(宮崎北部)

定年延長の給与水準7割はモチベーションが維持できない。改善に向けた取組を求める。

作りを。

「地本見解」

テレワークについては、公務に支障がなく、所属の長が認めれば使用できることになっている。地本としては、引き続き、当局に使用しやすい環境づくりを当局に求めているが、分会としても交渉機能を発揮して、署当局に引き続き求めて、署の職場環境作りに努めて欲しい。

◆人事評価について

藤川(局分)

資格取得を目指す者や取得した者の適切な人事評価の実施を求める。

◆地本見解

松永(鹿児島)

人事評価については、4原則2要件を踏まえ、適切に評価するよう求めている。

◆地本見解

井上(大分)

意見が踏まえ、今後も適切に評価されるよう取り組む。

秋吉(長崎分)

赴任旅費について、離島への家用車運搬経費を対象とするよう求める。また、賃金引き上げについて大幅なベースアップとなるよう求める。

◆地本見解

木下(屋久島分)

有害捕獲について職員実行で行っていることから、山上等作業手当の拡充を求める。また、赴任旅費について、離島への家用車運搬経費を対象とするよう求める。

◆地本見解

峯(佐賀分)

定年延長の給与水準7割はモチベーションが維持できない。改善に向けた取組を求める。

◆地本見解

松永(鹿児島)

GS(完全移行)となったが、職場の雰囲気としてテレワークが使いにくい。使いやすい環境改善に向けた取組を求める。

◆地本見解

岩本(宮崎北部)

定年延長の給与水準7割はモチベーションが維持できない。改善に向けた取組を求める。



和田 (宮崎南部)

柿田 (宮崎分会)
定年延長の給与水準7割はモチベーションが維持できない。改善に向けた取組を求める。

新庁舎への移転が予定されているが、一部の通勤者が不便となってしまう。改善に向けた取組を求める。

「地本見解」

赴任旅費に伴う自家用車の運搬費については、公務労協と連携し交渉を展開しているが、現状にとどまっている。多くの組合員が自己負担で運搬している実態を踏まえ、交渉を強化していく。

また、賃上げについて、地方でできる取組は全て行い中央へ繋げたところ。連合集計では昨年を上回るポイントではあるが、人事院勧告と比例するとは限らないので、給与法改定までを見据え、手を緩めることなく取り

青女傍聴発言



青年女性委員会
は、昨年7月に開催した第18回青年女性委員長会議で確認した方針に基づき、「仲間を一人にしない」を柱に各分会が様々な活動・学習を展開する中で生活・職場実態改善と仲間の団結強化に向けて取り組みをすすめています。

今年度も全分会で署長等会見を実施しました。2月には全分会での春闘学習交流集会を開催し、各分会から浮き彫りになっ



河本 (都城)

組んでいく。
山上等作業手当の拡充については、各ブロックからも参加し九州人事院事務局と交渉してきた。先般、人事院本院が国有林野の現場を視察するなど、堅実に前進していることで、引き続き取組を継続していく。

定年延長に係る給与7割措置については、65歳を見据えた給与カーブの改定に向け、引き続き公務労協と連携し取組を強化していく。

新庁舎への移転に伴う課題について、実行する中で見えてきた課題は適宜交渉等で解消を図っていく。また、自家用車の移転料の対象とならないかセツトで検討していく。

政策・制度の取組

◆ジェンダー平等について
井上 (天分会)
地本の議案書にジェンダー平等

「仲間を一人にしないを柱に」

た実態を総務企画部長会見において改善要求しました。生活・職場環境をはじめとした各課題の改善に向け引き続き継続して取り組みます。

また、九州地本青年女性委員会の団結強化を目的とした全体集會を開催する為、資金活動に取り組まれました。今回は「森人ボロシャツ」の販売を展開しましたが、販売枚数は385枚と当初の予想を超える結果となりました。組合員の皆様、またご



藤川 (局)

等に対するものが記載されていない。今後は記載すべきと考え

「地本見解」

記載していないから取り組んでいないということではない。九州地本青年女性委員会と連携して、「連合ジェンダー平等推進中央集會」や中央女性集會に参加している。労働組合が男女平等参画社会の実現に向けて期待される役割を理解し、次回の地本大会の議案書に盛り込むよう地本の執行委員会と議論する

組織体制確立

後藤 (局分会)
組織対策について、組織対策強化月間は青女も含め全体で対策進めてきた。しかし、現在も新規採用者がまだ1名未加入となっている。工夫して取り組んできたが、今後も組合員の皆さ

家族の皆様ご協力本当にありがとうございます。引き続き全体集會開催に向け、資金活動を先行予定としておりますので、各分会でのセールのもあわせてお願いします。

これまでこの傍聴発言や委員長会議において、青年女性委員の集まる場の確保をお願いしてきたところですが、業務の負担増などによりなかなか集まれないのが現状です。この状況を打開するために、各ブロック



米本 (熊本南部)

んと協力しながら進めていきたい。また、今年度に入ってから3名の脱退者が出ている。脱退の意思が固まる前に何か対策が出来なかったかという思いはある。改めて一声・一枚岩運動が重要であると感じており、何か良い案があれば共有してもらいたい。

「地本見解」

組織対策強化月間に新規採用者と選考採用者25名中23名が加入しており、分会段階での取り組みに対して感謝申し上げる。未加入の2名のうち1名は、昨日の質疑討論の場で、近日中に加入となること報告されており、粘り強く対応して頂いた分会に対して改めて感謝申し上げます。残りの1名については、仕事の場でも声を掛けたりしているが、まだ加入には至っていないところである。今後も様々な工夫を行いながら分会とともに

「地本見解」

組合費の引き下げについては、質上げ等の各種取組を進める上で、現行の率が最低水準となっていることを理解いただきたい。奨学金等が課題となっているのであれば、借り換えを提案するなど世話焼き運動の側面からもフォローしてほしい。



白内 (北薩)

取り組んでいきたい。また、脱退者については、様々な事情があると思われるが、今後も組合員全体で一声・一枚岩運動を継続し、アンテナを高くしながら状況の把握に努め、分会と一体となって取り組んでいきたい。

組合費の引き下げについて、現行の率を見直すべき。奨学金を返済している若者も多く、負担が大きいと感じている。

希望のある未来へ向け 青年女性が一枚岩に

～第19回九州地本青年女性委員長会議～



井上 (西都児湯)



市原 (熊本)



山形委員長の挨拶で一枚岩に

(青女委・山形通信員)
7月20日～21日に「九州森林労連会館」にて、「第19回九州地本青年女性委員長会議」を開催しました。今回の会議では、分会代表者及び傍聴参加者合わせて31名が参加しました。冒頭、山形青年女性委員長は「国有林野事業の健全化や労働条件の改善、九州地本青年女性委員会の更なる組織体制の強化・発展に向け本会議が有意義なものになるよう活発な意見をお願したい。」と挨拶、続いて来賓の九州地本古村書記長より労働組合の必要性や取り組み

九州ろうきん
インターネットでいつでもどこでも申込みOK!
カーライフローン 教育ローン キャンペーン
キャンペーン期間: 2024年8月1日(木)～2025年3月31日(月)
変動金利 年1.8%～年2.1%
固定金利 年2.0%～年2.3%
教育ローン 年2.2%～年2.5%



多くの仲間が集結!!



後藤 (局)

について、激励の挨拶を受けました。その後、議長に細川代議員(佐賀分会)と村岡代議員(熊本分会)を選出し、議事が進められました。始めに、常任部より「2023年度闘いの総括」、「2023年度行動経過報告」、「2024年度運動方針(案)」の提案がありました。質疑・討論では「若手職員が係長ポストの仕事をしている」「現在女性職員の採用数も増えているため、女性委員についても年齢制限を設けてほしい」「住居手当の改善」「新規採用者の加入促進に向けた対策はあるか」「業務服を要求する際に試着できるといい」といった様々な実態や意見が報告されました。



思いを込めたガンパロー!!



田畑 (福岡)

最後に、常任部より「集まり話し合う場の確保として定例会の実施」「大衆諸行動として署

最後に山形青年女性委員長の音頭のもと力強い団結ガングパローで閉会しました。

長等会見の実施」「全体集會に向けた物販活動への協力」を改めて提案しました。今後も各分会で青年女性委員会の大会を開催し、「仲間を一人にしない」を柱に委員相互の団結強化を図るなどこれまでの活動を無駄にすることなく、継続した取り組みを進めることが重要であると再確認し、全会一致で運動方針(案)は採択されました。

各ブロックの総括討論

北部ブロック

峯代議員(佐賀)



今私たちが

を取巻く情

勢は、平成

25年4月一

般会計化となった当初は、九州局全体で730名であった要員が、現在は、約589名となり、約20%程度減少し非常に厳しい状況に置かれている。また、60歳で退職が定年延長を選択する該当者が多く、職員配置はすでに業務運営上にも影響が出ている。欠員や、事務取扱が増えている。北部ブロック(福岡9、佐賀5、長崎8、大分西部5、大分7)には34の森林事務所があり、うち、約4割にあたる13事務所(福岡3、佐賀1、長崎4、大分西部3、大分2)で森

林官の欠員が出ており、事務取扱の状況である。近年多発する異常気象に伴う山地災害に対する対応や復旧に要する森林土木技術者が減少し、加えて、債務返済問題において、生産量、販売量が年々増え、最近では、若者への上級ポストの業務の任用や業務負担が増加傾向にあり、若年者の早期退職の一因とも考えられます。若い世代が、自信を持って働く環境づくりなどといった新たな対策も急務となります。

6月21日に閣議決定された経済財政運営と改革の基本方針2024に関連して、地本指示により先般、「予算概算要求に関する要求書」を提出したところ。その要求項目は、森林整備、花粉症対策、雇用等に必要の予算の確保です。慢性的な要員不足に対して喫

熊本ブロック

後藤代議員(局)



熊本地域

森林労連は

昨年10月に

「森林・林

業基本計画」の推進について、熊本県林業活性化議員連盟に要請行動を行い、その中で議論の中心となったのが、新たに要請事項に追加された「林業分野における外国人材の活用について」でした。

その中で、林業の労働災害の発生率は他産業に比べ10倍以上の発生率となっている現状を踏まえて、日本語能力を担保した上で、安全教育・安全確保を図ることが重要であり慎重に検討を進めが必要であることを確認しました。

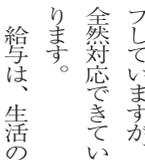
現在、省令等の改正に係る作業が進められてきておりますが、賃金や労働安全確保をはじめとする労働諸条件等、国内林業の現状を踏まえ、安価な労働力確保手段としての外国人材受け入れは、結果として国内林業労働力の確保に支障を来すことが懸念される一方で、引き続き連合をはじめ熊本県林業活性化議員連盟への要請行動や、熊本労働局が開催する林業雇用改善推進会議等で情報を共有し、林野庁交渉や国会対策へ繋げる取組みが必要です。

私たちが職場を取り巻く環境はここ数年増加傾向にあるものの依然として要員不足の状況により、空席ポストの増加に伴う業務量の増加や、40歳前後の間層職員の不足に伴うポストギャップ等多くの課題を抱えています。

さらに定年延長者の給与は7割になり、求められていることは、定年延長前と変わらず仕事を進めるモチベーションが上がらない等の声があがっており、その職員の知識・経験を十分に

宮崎ブロック

柿田代議員(宮崎)



世界では

ロシアによ

るウクライ

ナへの侵攻

が続いており世界各国の経済に大きな影響を落としています。日本でも物価の高騰、電気料金の値上げなど暮らしに大きな影響を及ぼしていることや、自民党の裏金問題による政治不信や若年層の政治離れなど問題は山積しています。

国野林野事業においては、一般会計移行も、組織・要員問題、現場管理機能の強化、給与の質的な低下など労働条件等の課題が多く残っています。

まず、業務運営については、どの分会でも慢性的な要員不足となっており、組合員への労働荷重や若手組合員への業務配分など要員配置やポストグレード、地域林業への貢献や民間への発信など満足な公務サービスの提供が難しくなっている状況であり、組合員一人一人のモチベーションにも影響を及ぼしています。宮崎ブロックの各分会でも当局に要求を継続します。

次に生活環境についてです。円安や物価の高騰・燃料単価の上昇は上がる一方です。春闘では民間企業は軒並みベースアップしていますが、物価上昇には全然対応できていない状況にあります。給与は、生活の基盤・労働意欲の上昇につながり全職員の早急な賃上げが必要と考えます。このような状況の中、組合に対する帰属意識が低下している状況ではないかと危惧しています。課題解決に向けた取組を進めていますが、思うように行かない状況ではないかと感じています。しかし、今だからこそ、粘り強く、強固な組織として、課題解決に向けた取組を続ける必要があります。「組織体制の確立」が重要ではないかと考えます。九州地本は高い組織率ですが、全国的には組織率は低下しており、未加入者が増え、組合離れが深刻化している状況にあります。組織体制の確立は、組合員一人一人を守るためのものであり、この意識を持った多くの仲間が結果し、行動することで、非常に大きな「力」になるものだと思います。既存の組合員への丁寧な対応が一番重要になるのではないかと考えます。宮崎ブロックでも積極的に取組んでいきます。

本大会で確認されました各種方針を念頭に地本と一体となり「一校岩運動」の推進に向け取り組むことを誓い、宮崎ブロックを代表しての総括討論と致し

総括討論決意表明

地本執行委員長 加藤吉征



を再確認できたのではないかと思っています。同時に、地本に対して指導性の発揮を求められたものと思っております。

この2日間、多くの発言をいただきましたが、特に、要員問題、そして賃金、手当の見直し、職場環境の改善といった課題で多くの議論が行われたと思っております。こうした課題は、その多く

それぞれ4ブロックから、気持ちのこもった総括討論をいただき、改めて九州地本の抱える課題、今後取り組むべき方向性

が一般会計移行時の継続課題となっており、なかなか前進に結びついていない課題もあるというのが事実であります。

しかし、職場要求に基づく高性能パソコンの配備、青年女性委員会が制服の見直しを毎年言いつづけた結果、見直しが実現し、フルタイム再任用、赴任旅費の実費支給への見直しも実現しました。そして昨年は、全世代での賃上げを勝ち取ることができた。どの課題も中身に満足しているわけはありませんが、にも大きな課題であると認識し

繰り返し継続して要求すること、課題の解決につながることも事実としてあります。そういった意味では、地本と明と今大会の議論を踏まえて、4ブロックそれぞれの決意表明と、人材の確保や育成に取

り取り組んでいきます。

ており、人材の確保や育成に取

り取り組んでいきます。

り取り組んでいきます。

鹿児島ブロック

白内代議員(北薩)



一般会計

へ移行して

10年が経過

した今でも

組織・要員問題、給与や各種手当の問題、現場管理機能の強化など労働条件等の課題もまだ数多く残っています。現実を受け止め交渉等の積み上げなど、一歩一歩前進するしか無いと思っております。

そのためには、団結した強い組織が必要であり、「組織体制の確立」が重要です。九州地本では高い組織率ですが、分会においては、未加入者もおり、年々低くなっている状況もありません。給与低下等を理由に再任用の未加入もおり、この間の労働交渉経過等を丁寧に説明するなど粘り強い取組を進めます。

分会の取組としては、各種行動や機関誌の発行、分会独自のレクリエーションや交流会など、組合員との繋がりをこころがけ、声を掛け合うことや、人事異動等で転入された組合員に対して、三役を中心に丁寧な対応を心掛け、分会活動への協力要請も行っています。こうした対応は、当時の分会委員長の教えでもあり「新規採用の対策や未加入者対策も大事やっどん、今、一緒に頑張っている組合員を丁寧に対応していくことが、わっどん大事やっど」と。この言葉は、北薩分会では初代委員長、また九州地本では書記長を務められた山下和也氏の言葉であります。この教えを大事にして、林野労

組の執行部に携わっている間は一杯組合員のために取り組みを進めていこうと思つたところ

記事を募集しています!!

会議、イベントや、各種集会的な記事の募集をお願いします。お申し込みは、各分会の担当者にお願いします。E-mail: sinrin14-kaku@siren.ocn.ne.jp (教宣担当)